

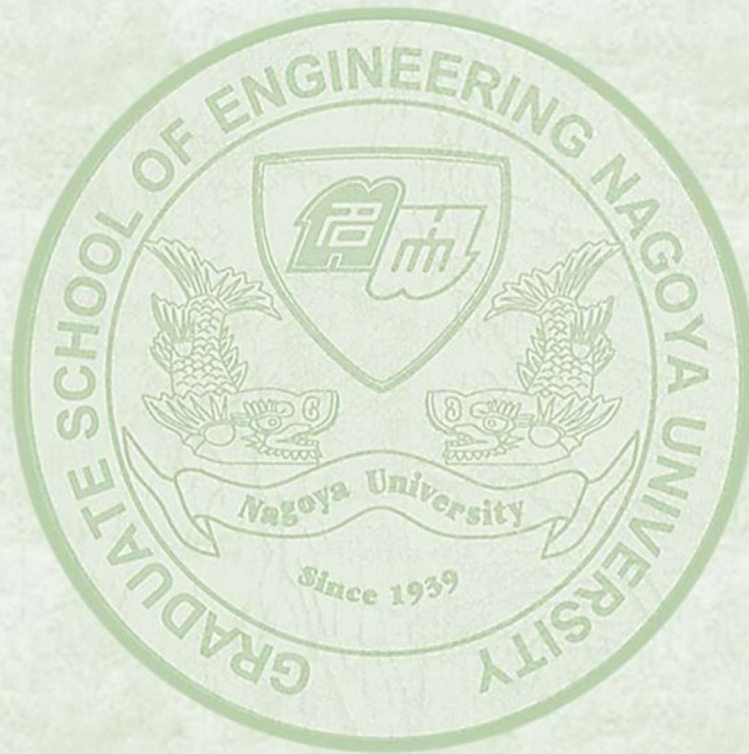
名古屋大学大学院工学研究科

国際交流室報

International Academic Exchange office

Annual Report

2020 – 2021



International Exchange Committee
International Academic Exchange office
Graduate School of Engineering
Nagoya University

名古屋大学大学院工学研究科学生支援・国際交流委員会

名古屋大学大学院工学研究科国際交流室

<https://int-office.engg.nagoya-u.ac.jp/>

目次

巻頭言(鈴木 達也)	3
国際交流室の活動について(戸田 祐嗣)	4
コロナ禍における国際交流室活動の現状(古谷 礼子).....	5
工学研究科における国際交流の状況について: 工学研究科関連学術交流協定一覧(市川 剛)	8
コロナ禍における外国人留学生の渡日支援(古谷 礼子).....	12
令和2年度 「Speaking & Writing 英語力強化講座」(レレイト エマニュエル)	15
令和2年度 派遣留学説明会(グリブ ディーナ)	17
令和2年度 工学概論第3「日本の科学と技術」(曾 剛)	18
令和2年度 テクニカルライティング(曾 剛)	19
令和2年度 留学生の防災意識と防災対応力の向上に関する取り組み(レレイト エマニュエル)	20
英語による留学生向けものづくり公開講座の報告(井上 剛志)	21
令和2年度 グローバル理工系人材のためのキャリア形成支援事業(グリブ ディーナ)....	22
授業料を不徴収とする大学(部局)間交流協定締結大学一覧	23
令和2年度 学位取得外国人留学生論文一覧(博士後期課程)	27
令和2年度 学部卒業留学生.....	31
名古屋大学及び工学部・工学研究科在籍外国人留学生の変遷	32
工学部・工学研究科外国人留学生数調(国・地域別)	33

巻頭言



工学研究科 副研究科長
鈴木 達也

ニューノーマル時代における国際交流

コロナ禍により海外渡航が困難になって1年半以上が経ちます。私自身も2020年3月に予定していた米国の研究所訪問を直前でキャンセルしましたが、それ以来、海外渡航を自粛しています。現在、わが国では第5波がピークアウトの様相を呈す一方で、新たな変異株の発生や第6波に対する備えの必要性が叫ばれており、国際交流活動も大きな様変わりを見せています。

国際的なレピュテーションを上げる上で国際交流の果たす役割は大きいと言えます。工学部でもこれまで様々な国際交流活動を展開してきました。卒業・修了までのすべての講義を英語で提供するGlobal 30国際プログラムはその一例ですが、昨年、今年と渡日が困難な留学生も多く、遠隔授業や遠隔での研究指導の重要性が高まっています。また、2019年まで毎年実施され、好評を得ていた自動車工学サマープログラム(NUSIP)が2020年に続き、本年も中止の判断をせざるを得ませんでした。

一方で、本学工学部を志望する留学生の数は増加傾向にあり、その受け入れ形態について今まで以上に知恵と工夫が求められています。そんな中、COIL (Collaborative Online International Learning) 型教育と呼ばれるオンライン教育を中心とした海外の大学との連携教育やAPRU (Association of Pacific Rim Universities) が企画する Virtual Student Exchange Program などが新たな取り組みとして注目を集めています。これらは、コロナ禍がきっかけとなり発案されたオンライン型の国際交流の新たな形態ですが、ポストコロナのニューノーマル時代になってもある一定の役割を果たすと考えられます。国際交流の本質は言うまでもなく、現地で異なる文化や考え方に触れ、様々な「体験」を通して視野を広げ、新たなネットワークを築くことにあります。しかしながら、オンラインでの交流がもたらす時空間のギャップの克服は、国際交流において大きなインパクトをもたらしていることも確かです。オンライン交流のおかげで、日本人学生も比較的容易に海外の学生と触れ合う機会を持てるようになり、英語力の強化や文化・考え方の交流に一定の貢献を果たしていることは間違いありません。今後は現地ならではの実体験とオンラインでの交流を融合した、ハイブリッドな国際交流が主流になると予想されます。

全学的にも、学内の国際交流に関する様々なリソースを結集し、ニューノーマル時代の新たな国際展開を模索すべく、そのための体制づくりが急ピッチで進んでいます。工学部もこうした流れに乗り遅れることなく、今まで以上に国際交流の本質を深く洞察し、工学部ならではの新たな国際交流活動を展開していきたいと思えます。

皆様におかれましては、ぜひ新しい国際交流活動にご理解いただき、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

国際交流室の活動について



工学研究科学生支援・国際交流委員長
戸田 祐嗣

令和3年4月より工学研究科学生支援・国際交流委員長ならびに国際交流室室長を務めさせていただいております。本年度もよろしくお願いいたします。さて本室報は2020年度の国際交流室の活動報告となりますが、2020年度はまさに新型コロナウイルス感染症による大打撃を受けた1年間でした。大学活動としては国際交流のみならず通常の講義、キャンパスライフの在り方そのものがコロナ以前・以後で大きく変わり、オンラインによる教育、研究活動の継続を試みながら、大学教育と感染症拡大対策の両立を模索する1年間となりました。このような変化の荒波に直面している状況ですが、グローバル化が名古屋大学の重要なミッションであることに変わりはなく、国際交流室ではコロナ禍でも実施可能な国際交流活動を継続して進めてきました。

海外の大学や研究機関との学術交流や共同研究については、国際交流室が中心となり、担当教員の支援、相手機関との交渉、協定の作成や延長をまとめております。2019年10月から導入されたWebによる研究生応募支援システム(NU-ASS)の運営も軌道に乗り、研究生受け入れ手続きの統一化・簡素化がなされています。質の高い留学生獲得に向け、学術協定を締結している大学にて模擬講義や名大説明を実施する名大巡行をオンラインで実施し、高いポテンシャルを持つ留学生の呼び込みに向けた活動を積極的に実施しています。また、留学生が卒業後に日本で働くことを希望しても、就職活動あるいは就職後の社会生活で困難に直面し、帰国してしまう事例も見受けられます。留学生のキャリアパス支援として、グローバル理工系人材のためのキャリア形成支援事業を実施し、留学生の就職支援を行っています。

一方、2020年度は国をまたいだ人の移動はほぼ完全にストップし、実際に学生の海外派遣を伴うプログラムは中止せざるを得ない状況となりました。これまで数多くの留学生に支持されてきた自動車工学プログラム NUSIP や 2019 年度に開始した大連理工大学との学部・大学院連携プログラム等についても中止を余儀なくされましたが、行動規制が緩和された際にすぐに活動再開できるよう、あるいは急速に浸透したオンラインによる教育・研究交流ツールなども取り入れ、アフターコロナを見据えたより効率的・効果的な国際交流へ展開できるよう準備を進めてまいります。

国際交流に関する長年の課題である工学部・工学研究科の学生の海外留学者数増加に向けた活動も継続して実施しています。国際交流室では、海外留学についての学生からの相談を受けたり、派遣留学の説明会をオンラインで開催したりするなど、留学支援活動を進めています。在学生の英語能力の向上に向け英語力強化講座を開講し、ネイティブ講師とのオンラインによるコミュニケーションを通じて、スピーキング、ライティング能力を中心に英語力強化を図っています。

コロナ禍にあつて国際交流室室員はこれまでにない課題に直面し、多忙を極めておりますが、今後の国際交流活動の更なる展開に向け多くの課題に取り組んでいく所存です。国際交流室メンバーは事務職員の皆様と連携しつつ、今後も活動を進めてまいりますので、皆様には引き続き国際交流室の活動にご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

コロナ禍における国際交流室活動の現状

留学生担当総括教員
古谷礼子

はじめに：

引率教員として大学院生 16 名と一緒に「大学院生向けデータサイエンス海外研修」に参加するために 2020 年 2 月末にノースカロライナ州立大学に滞在した。当時大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」についてはアメリカのメディアでも取り上げられていたが、新型コロナウイルス感染は船内だけのことであり、これほど拡大して世界的危機をもたらすとは想像しなかった、正確には想像したくなかった。しかし日本と海外の渡航が制限され、新型コロナウイルスは 2020 年度に留学生を含む全ての本学の構成員に深刻な影響を与えた。

当国際交流室もこれまでの活動や事業に大きな影響があった。以下、コロナ禍における国際交流室の活動の現状を報告する。

(1) 春の大学行事と留学生向けプログラムの中止

3 月に入って次々に大学行事と留学生向けプログラムの中止が発表された。教育研究評議会で審議された結果、令和 2 年 3 月 25 日に予定されていた本学卒業式および学部・研究科における学位授与式だけではなく、4 月 5 日（日）に予定されていた本学入学式も中止が決定された。名古屋大学交換留学受入れプログラム (NUPACE) は 4 月に協定大学 54 校から全学レベルで 94 名を受け入れる予定であったが、2020 年度の春学期はプログラムの実施を見送ることにした。また NUSIP 夏期集中講座「自動車工学における最新技術と課題」も受け入れを断念することになった。NUSIP はインド、台湾、中国、米国、カナダ、オーストリア、オーストラリアにある大学から約 50 名が応募しており、更にサウジアラビアから 5 名の学生を受け入れる予定であったが、複数の協定校から派遣留学の見送りを告げるメールが来たため早急に中止の判断を下した。

(2) 春学期の状況

4 月に入って本学にて新年度を迎えることができた留学生は早めに新規渡日した留学生と国内移動の新入生計 3 名と日韓共同理工系プログラムの 5 名の計 8 名のみであった。これらの学生は、日本滞在が初めてではないこともあり、新学期ごとに開催してきた新留学生オリエンテーション開催を希望していなかったため、開催を見送り、メールによる連絡や web 会議ツールである zoom を利用した面談を行った。

春学期期間中の講義等については、原則的に NUCT 等の ICT を活用したデジタル授業が行われ、音声付パワーポイントや動画等オンデマンド電子教材も用いられ、渡日できなかった留学生も名古屋で留学生活を送っている学生も自宅や下宿でインターネットを利用して受講した。尚、実習・

実験等は例外とし、(i)換気の悪い密閉空間、(ii)多数が集まる密集場所、(iii)間近で会話や発声をする密接場面という「3つの密」を徹底的に回避して開講された。

国際交流室が春学期から担当した新しい授業「テクニカルライティング」では、遠隔授業にまだ慣れていなかったが、様々な工夫をして、無事に行うことができた（詳細：19頁、「令和2年度テクニカルライティング」）。

会議のオンライン化やテレワークの導入等に関する実施方針が明示され、教職員はテレワークが推奨されるようになった。また4月16日に緊急事態宣言が全国に拡大してから間もなく、当時国際交流室が入っていた工学部7号館は5月の連休明けまで閉館することになり、閉鎖期間中にやむを得ず出勤する時のために7号館に入るための鍵が渡された。

西山聖久先生は6月末日に任期満了を迎えられ、工学部・工学研究科の留学生担当講師を退職された。8年の間工学部を中心とした本学の国際交流に深く関わられ、留学生支援、異分野異文化交流ワークショップのファシリテーション、英語論文執筆指導など様々な活動を行った。引き続き本学の国際機構にて国際交流の業務に従事される。西山先生の後任として本学人文学研究科の国際交流担当のグリブ・ディーナ先生が7月に着任された。

(3) 引越し

2009年11月に工学部4号館から工学部7号館B棟へ引っ越したが、今年度は工学部7号館の建て替えに伴い、国際交流室と4名の留学生教育教員は8月に工学部3号館南棟へ引っ越すことになった。新国際交流室は7号館の時の国際交流室より狭いが、別に会議室を設置することができた。今までは国際交流室で打ち合わせをする時は学生の利用を遠慮してもらっていたが、これからはこのような迷惑を掛けることはなくなる。2000年に4号館にて国際交流室が設置された時と7号館に引っ越しをした時はお披露目会を行ったが、今回の引っ越しは新型コロナウイルス感染症の予防および拡大防止のため、そのような行事をすることもなく、さらに留学生には利用の自粛をお願いした。

(4) 秋学期の状況

秋学期はzoomがますます欠かせないコミュニケーションツールとなった。9月25日にG30学部新生の理系合同履修ガイダンス、9月28日に工学部・工学研究科の新留学生を対象にしたオリエンテーションが開催された。他の研究科に所属している留学生担当教員と協力して9月28日から3日間全ての新入留学生を対象にzoomを使って新入留学生学生相談会を開いた。渡日できていないために不安に感じたり、情報が不足していたりすることがないようにサポートすることが開催目的であった。工学部・工学研究科からは17名の留学生が参加した。オンライン授業の受講方法、図書館の学外利用方法や2週間の待機場所について等の新型コロナウイルスに影響を受けている質問が多かった。

春学期に引き続きデジタル授業やハイブリッド授業が行われ、with Corona, post Corona時代の新たな授業のスタイルとして対面と共に同時双方向通信やオンデマンド教材を利用した授業を留学生に限らず本学の学生は受講した。

(5) 新規渡日留学生への対応

2020年10月から原則として全ての国・地域からの外国人留学生を含む中長期在留者について、順次新規入国が認められるようになった。しかし渡日後14日間待機することができる場所を確保する必要があり、更に空港から待機場所までの移動に電車、バス、タクシー、航空機（国内線）などの公共交通機関の利用をしないように強く要請されていたため、大学がバスをチャーターして空港まで迎えに行くことになった（詳細：12-14頁、「コロナ禍における外国人留学生の渡日支援」）。

(6) 研究生応募支援システム（NU-AAS）の本格運営

昨年「研究生オンライン応募支援システム NU-AAS」を立ち上げて試運用したが、本年度は試運用の経験を踏まえて、システムを改善しつつ本格運用した。新型コロナウイルスの影響で締め切りに書類の提出ができないという問題があったが、特別に対応した。2020年10月入学の研究生応募に124名、2021年4月入学に27名の応募があった。コロナ禍にもかかわらず、例年並みの応募となった。

(7) 国際交流室主催の活動

新型コロナウイルスが原因で開催中止や実施方法を検討せざるを得ない活動が複数あった。

「中部地区製造業企業交流」は毎年留学生経費の特別経費を使って開催していたが、この活動の対象者である NUPACE の留学生が渡日できないことや製造業企業が訪問者の受け入れを中止しているという理由により、2020年度は中止となった。

また、2014年から毎年国際教育交流センター教育交流部門、中国交流センターと連携して企画・実施した中国の協定校における名大巡講も中止となったが、中国科学技術大学からの要請で11月12日にオンラインでの専門講義と現地での留学生説明会をハイブリッド形式で開催した。

さらに、これまで対面で実施してきたプログラムの多くも実施方法の変更を余儀なくされた。

新しく留学生支援事業経費の交付を受け、「グローバル理工系人材のためのキャリア形成支援」をオンラインと対面のハイブリッド形式で行うこととなった。また、「派遣留学説明会」と「交流会」は、前期は中止となったが、後期はオンラインで実施した。「留学生の防災意識と防災対応力の向上に関する取り組み」、「IELTS 英語力強化講座」もオンラインで実施することとなった（詳細は各表題の報告書を参照のこと）。

その他、2016年から国際教育交流センター教育交流部門と連携して毎年夏休み期間中に実施していた吉林大学夏季研修プログラムも2021年3月に変更してオンラインで実施した。今回も工学研究科の9研究室、理学研究科の3研究室、地球環境研究所の1研究室が43名の学生を受け入れて13回の専門講義を行った。コロナ禍の中にもかかわらず、オンライン講義を丁寧に実施していただいた13の研究室に感謝する次第である。

最後に：

新型コロナウイルス感染症の拡大は対面を中心とした交流と支援をストップさせるだけではなく、私たちの日常を一変させた。感染症が引き金となって留学生が取り残されたり、不安に感じたりすることがないように国際交流室のメンバー全員はサポート体制を一層強化していく所存である。

工学研究科における国際交流の状況について：工学研究科関連学術交流 協定一覧

総務課第二人事係長
市川 剛

協定校名	国(地域)名	締結年月	
		部局間	全学
ミシガン大学工学部	アメリカ	1980.5	
シェフィールド大学	イギリス		1985.1
中南大学	中国	1985.3	
シドニー大学	オーストラリア		1985.4
ブラウンシュバイク工科大学	ドイツ		1985.9
北京工業大学	中国	1986.9	
清華大学	中国		1989.3
東北大学	中国		2001.6
モスクワ大学物理学部	ロシア	1993.12	
ワルシャワ工科大学	ポーランド	1996.7	
華中科技大学	中国		1996.12
モスクワ工業物理大学	ロシア	1998.6	
コロラド鉱山大学	アメリカ	1998.7	
西安交通大学	中国		1999.1
ポンゼショセ工科大学	フランス		2002.7
慶尚大学校	韓国		1999.11
哈爾濱工業大学	中国		2002.7
浙江大学	中国		2000.2
ケムニッツ工科大学	ドイツ		2000.4

協定校名	国(地域)名	締結年月	
		部局間	全学
南オーストラリア大学	オーストラリア		2004.10
フリンダース大学	オーストラリア		2004.9
アデレード大学	オーストラリア		2004.10
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	アメリカ		2000.7
ケンタッキー大学	アメリカ		2008.2
韓国海洋大学校海事大学及び工科大学	韓国		2015.11
インド工科大学マドラス校	インド	2001.2	
上海交通大学	中国		2001.2
同済大学	中国		2001.2
北京大学	中国		2002.1
モナシュ大学	オーストラリア		2003.7
南京航空航天大学	中国	2003.10	
中国科学技術大学	中国		2003.10
漢陽大学校	韓国		2004.6
ロシア科学アカデミーコンピュータ支援設計研究所	ロシア	2005.2	
ルール大学ボーフム校物理天文学部及び電子情報学部	ドイツ	2011.3	
釜山大学校工学部	韓国	2006.12	
カリフォルニア大学ロスアンゼルス校工学・応用科学部	アメリカ		2008.4
バレ・グアテマラ大学工学部	グアテマラ	2008.4	
タンタ大学工学部	エジプト	2008.4	
インドネシア大学	インドネシア		2019.6
慶北大学校工学部	韓国	2009.4	
中国科学院上海セラミックス研究所	中国	2009.6	

協定校名	国(地域)名	締結年月	
		部局間	全学
成均館大学校	韓国		2009.7
※ダルムシュタット工科大学土木工学・測地学科	ドイツ	2010.5	
瀋陽工業大学	中国	2010.11	
※科学産業研究機構(CSIRO)	オーストラリア	2011.8	
※北京師範大学 減災応急管理学院・地表過程資源生態重点研究所	中国	2011.11	
アーヘン工科大学	ドイツ		2012.5
※マンチェスター大学 環境開発研究科	イギリス	2012.5	
台湾国立陽明交通大学電気電子コンピュータ工学院	台湾	2021.2	
スラバヤ工科大学	インドネシア	2013.9	
※クラゲンフルト大学ソーシャルエコロジー研究所	オーストリア	2013.11	
ナイロビ大学	ケニア		2013.12
ヨハネスグーテンベルグ大学マインツ(マインツ大学) 物理・数学・コンピュータ学部	ドイツ	2014.10	
ワシントン大学工学部	アメリカ	2015.6	
ミシガン大学工学部高分子科学工学研究センター	アメリカ	2015.9	
ミシガン大学化学科	アメリカ	2015.11	
※デラサール大学工学部	フィリピン	2015.12	
ポーランド科学アカデミー高圧研究所	ポーランド		2015.12
ヨッフエ研究所	ロシア		2016.1
ロシア科学アカデミールジャーンノフ半導体研究所	ロシア		2016.2
#クレルモンオーベルニュ大学	フランス	2018.1	
#イノベーションズ フォー ハイ パフォーマンス マイクロエレクトロニクス(IHP)	ドイツ	2018.2	

協定校名	国(地域)名	締結年月	
		部局間	全学
ヌエボ・レオン自治大学	メキシコ	2018.2	
※天津大学建築学院	中国	2021.2	
※パドヴァ大学土木環境建築工学科	イタリア	2018.5	
#ユーリッヒ総合研究機構	ドイツ	2018.5	
ローマ大学サピエンツァ	イタリア		2019.6
#パドヴァ大学情報工学部門	イタリア	2020.2	
大連理工大学建設工学部	中国	2020.5	
*オハイオ州立大学 データ変換分析研究所	アメリカ	2020.7	
マレーシアマラッカ技術大学	マレーシア	2020.9	
アルバータ大学	カナダ		2021.2

2021年4月1日現在

※大学院環境学研究科と共同で締結されている。

#未来材料・システム研究所と共同で締結されている。

*情報学研究科、医学系研究科と共同で締結されている。

コロナ禍における外国人留学生の渡日支援

留学生担当統括教員

古谷 礼子

工学部・工学研究科（以下「当部局」とする。）において、1名の留学生を除く全ての新規渡日留学生と春休みに一時帰国等で出国していた留学生は、2020年の新年度に渡日することができなかった。しかし、8月5日に一時的に入国制限が緩和されたため、本学に在籍する留学生のうち再入国許可証保持者は、入国の希望を事前調査票で表明することにより再入国が可能になった。

再入国にあたっては、入国時にPCR検査で陰性の結果が出るまで空港で待機し、届け出た待機場所（空港周辺ホテル、自宅等）で健康観察のため2週間の待機を行うという日本国が定めた検疫ルールに従う必要があった。更に、国内移動において公共交通機関を使用しないことが外務省より要請されていた。そのため、本学ではバスをチャーターして空港まで迎えに行くこととなった。

チャーターバスは、名古屋大学本部がチャーターし、本学に在籍する全ての留学生を対象にしたバス（以下、全学バス）と各部局が独自にチャーターしたバス（以下、部局バス）の二種類である。部局バスは、残席があった時に限り他部局の留学生も利用対象者とした。全学バスは9月11日および12月3日に運行され、12月のバス3台には、当部局のグリブ・ディーナ留学生担当教員を含む他部局の留学生担当教員2名が乗車し、当部局に在籍する留学生11名を含む64名の留学生を成田空港へ迎えに行った。部局バスでは、12月11日に理学研究科が成田国際空港へ迎えに行ったバスには10名乗車し、そのうち4名が工学部・工学研究科の留学生であった。

以下、当部局が2021年1月8日と1月15日に運行した部局バスの状況について紹介する。

(1) 引率の方針：

国際交流室員の家族構成等を考慮すると、部局バス運行に際し、万が一、感染者が出た場合に備え、室員は引率を行わない方が良いとの考えから、引率業務は旅行業者に委託することとした。そのため、旅行業者とは打ち合わせを念密に繰り返して行なった。旅行業者には、2名体制を依頼し、1名はバスに同乗して名古屋までの引率を、もう1名には乗車時に感染の疑いのある留学生または感染している留学生の現地対応業務をお願いした。

(2) 国際交流室の支援体制等：

更なる危機管理のため、国際交流室では緊急事態に備え以下の支援体制を整えた。

【事前準備】

①入国時前より、SNS（WeChat および LINE）でグループチャートを用意し、留学生担当教員および渡日者同士の連絡体制を整備した。また、出発前にもオンライン体調管理フォームへの入力を要請した。

- ②バス乗車日の朝を含む入国時からバス到着時までの確に全員の健康を確認した。
- ③バスを運行する前に、旅行業者に渡すために本学の学旗、乗車者リスト、座席配置表、デジタルカメラ1台、非接触体温計1台、アルコール消毒液2瓶、予備マスク1箱を準備した。
- ④日本語が堪能な留学生1名を当日のリーダーとして選出した。リーダーの主な役割は、引率者との通訳・連絡係、車内での着席位置が分かる様にデジタルカメラで乗車者全員の撮影、各留学生からバス代金1万円の徴収の3つである。
- ⑤移動中も含め、常に学生と連絡を取ることができるよう、大学の携帯1台とモバイルWiFi端末1台を委託業者経由で学生リーダーへ貸し出した。
- ⑥緊急時（有症者が出た場合）、空港地域にある「帰国者・接触者相談センター」へ速やかに連絡するよう予め委託業者に依頼をした。受入れ病院が見つからない場合は、本学が手配する民間救急車に有症者を乗せ名古屋まで移動できるよう事前に打ち合わせをした。
- ⑦名古屋大学保健管理室、工学部の事務部および指導教員等と連携しながら、速やかに情報共有ができる体制を整備した。

【運行当日】

引率者には、主に以下の5項目を依頼した。

- ①国際交流室が用意した「バス乗車時の注意事項」の配布
- ②乗車時の検温（体温が37.5℃以上の学生がいた場合は速やかに国際交流室へ報告）
- ③手指のアルコール消毒、マスク着用の案内
- ④高速道路のSA・PAにて下車・乗車の案内、車内の換気、出発時の人数確認
- ⑤有症者が出た時の対応

【名古屋到着時】

バスは8日に他部局の留学生1名を含む12名と15日に12名を成田国際空港最寄りのホテル数カ所に寄ってから本学の留学生専用宿舎へ無事送り届けた。留学生担当教員4名は各宿舎で待機し入寮手続きの手伝いをした。

2週間の待機中に不便な生活を送ることがないように名古屋大学消費生活協同組合に生活必需品、長期保存食とお弁当を注文できるように手配が整えられ、更に本部から各自に飲料水、タオル、トイレットペーパー等が用意されていた。

(3) 留学生の感想

チャーターバスを利用した留学生のアンケートによると、公共交通機関とは異なり、大学が手配したバスであったため、不安に感じることなく渡日することができたとの意見が寄せられた。

バスをチャーターし、空港からの移動がコロナ感染発生の起因となる最悪なシナリオを避け、全員無事に名古屋入りできたのは、本部、当部局事務部、他部局の留学生担当教員のお陰である。

それ以上に、国際交流室全員が計画の段階から知恵を出し合い、最後の宿舎入居までお互いに協力したことが、無事で円滑な留学生の渡日支援につながったと言えよう。

尚、留学生にとって名古屋到着はゴールではなく、留学生活のスタート地点に過ぎない。これからもサポートは続ける所存である。同時にまだ渡日できていない留学生が1日でも早く本学で留学生活を送る日が来るのを待ち望んでいる。

参考資料

古谷礼子、曾剛、レレイト・エマニュエル、グリブ・ディーナ（2021）「コロナ禍における外国人留学生の渡日に関する課題：成田送迎バス運行の事例を踏まえて」『2021年留学生教育学会年次大会予稿集』、49-50。

1 三版 第26063号 (発行日: 2021年12月22日)

名古屋大に到着した外国人留学生ら
—名古屋千種区で (桜井泰隆撮影)



コロナ対策充実 ようこそ留学生

名大来日直後から自宅待機もサポート

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための入国制限が10月から緩和され、海外からの留学生を受け入れる大学が増えた。ただ、来日直後の2週間は公共交通機関を使わず、自宅などでの待機が必要。各大学は空港からの移動手段や待機場所の費用負担など、感染リスクを抑える水際対策をしつつ、留学生を支援している。

(藤原千晶)

十二月初め、成田空港を
出発した三台のバスが名古屋大(名古屋千種区)の
曹田講堂前に到着した。乗
っていたのは、中国やイン
ドネシアなどから名大や岐
阜大に留学する学生ら六十
三人だった。

中国からの留学生の劉
子一さん(こは)はセンター
学を勉強するため、当初四
月に来日予定だった。「や
っと来る事ができた。う
れしい」と声を弾ませる。

バスは、両大を運営する
東海国立大学機構が手配
した。運行代金の一部を負担
した。同空港で留学生を出
迎える、コロナ対策として座
席の間隔を空けたり、換気
に気を付けたりしながら走
らせてきたという。

名大の留学生の多くは学
生寮に暮らす。来日後の
二週間は自宅待機で買い物
もままならない。大学側
は、消毒液やマスクなどの
セットを提供したほか、大
学生協の協力を得て、イス
ラム教の戒律に従った「ハラ
ール」対応も可能な弁当
や、日用品を生文販売で届
ける態勢も整えた。

劉さんは、「バスもお弁
当も非常にありがたかつ
た。中国には受け入れ大学
の支援がなくて留学できな
い友人もいて、うらやまし
がられた」と感謝した。

名大によると、留学生は
十一月時点で約一千人いる
が、現在も二百人弱はコロ
ナの影響などで来日できて
いない。担当者には「留学生
も日本に来て名大で学びた
いとの強い思いを持ってい
る。日本人学生にとっても
も、留学生のいる国際的な
キャンパスで学べる意義は
大きい。水際対策を含めて
支援し、受け入れていきな
い」と話す。

新型コロナウイルスの
二ユースと身
近な対策をこ
ろになれます

他大学も支援さまざま

東海地方の他大学でもさまざまな方法で、来日する留学生をサポートしている。

岐阜大には、秋以降に約40人の留学生が来ている。来日直後の2週間はホテルで待機する場合、私費留学生にはホテル代の一部を負担する。三重大も16人の留学生を受け入れており、同様にホテル代の一部や、空港からホテルまでのハイヤー代を支援した。

名城大には7人の留学生が来ており、空港からのハイヤーやバス代、ゲストルームでの2週間の待機費用などを大学が負担した。愛知大は、留学生の相談に個別に応じながら13人を受け入れており、来年度からは待機時のホテル代補助や送迎バスの手配などを実施する予定。

名古屋市立大は留学生11人に対し、支援金として最大3万2000円を支給した。愛知県立大では、新型コロナで困窮する学生に5万円を給付する制度を、留学生に適用している。

令和2年度「Speaking & Writing 英語力強化講座」



留学生専門教育担当教員

レレイト エマニュエル
LELEITO Emanuel

概要

本講座は工学部・工学研究科の学生の英語力全般(Reading、Listening、Speaking、Writing の4技能)の大幅な向上を目標とし、名古屋大学工学部・工学研究科国際交流室教員と IELTS 専門講師が指導を行っています。IELTS の形式に沿った教材を用いた練習および教員からのフィードバックにより、個人では勉強しにくいスピーキングとライティングを重点的に取り扱います。採点基準やスコアの上げ方等を指導するとともに、講座後も自立して英語学習できるようにノウハウを伝授します。また、留学生との交流やディスカッション等、英語を使いながら楽しめるイベントも講座の一部として開催しています。

令和2年度はコロナの影響で、春学期は8月下旬～10月下旬、秋学期は11月中旬～1月下旬になりました。

令和2年度 講座日程と内容

内容:

火曜日の講座 (IELTS 専門講師が指導) では IELTS 英語テストの「スピーキング&ライティング」セッション、IELTS の学習方法を中心に行った。金曜日の講座 (レレイトが指導) では、火曜日の講座の復習、英語でのアカデミック・ライティングとプレゼンテーション力の強化を中心に行った。

詳細日程:

春学期【週2回:IELTS 講座(火曜日 18:15 ~ 19:45)、個別相談(金曜日 18:00~19:00)、全21回】

8月(4回): (火:18日、25日)、(金:21日、28日)

9月(9回): (火:1日、8日、15日、22日、29日)、(金:4日、11日、18日、25日)

10月(8回): (火:6日、13日、20日、27日※)、(金:2日、9日、16日、23日)

※10月27日:海外留学プログラムの説明・相談会を実施(海外留学室による全学留学プログラム、工学部・工学研究科の部局間協定、「オンライン留学」等の紹介、海外留学体験者の体験談、工学部・工学研究科の英語力強化講座の説明)

秋学期【IELTS 講座(火曜日 18:15~19:45)、個別相談(金曜日 17:00~18:30)、全18回】

・11月(6回): (火:10日、17日、24日)、(金:13日、20日、27日)

・12月(7回): (火:1日、8日、15日、22日)、(金:4日、11日、18日)

・01月(5回): (火:5日、12日、19日)、(金:8日、15日)

受講者の感想

(※下記は令和2年度の講座受講者対象アンケートと面談より)

良かった点としては、普段得ることの少ない英語を話す機会を定期的に得ることで、モチベーションを維持しながら英語学習に取り組めたこと、独学が難しいスピーキング、ライティングのフィードバックを実際のIELTS の試験官から得られたことがあげられた。また、講座の中のスピーキング模擬テストや会話の機会によってよりテストへの準備が出来た、英語学習により真剣に取り組もうと決意した、という声も挙がっている。だからこそ、スピーキング模擬テストの機会をもう少し増やして欲しいという声も多かった。

改善点として最も多く挙げたのは生徒同士の英語レベルの差に関してであった。ペアでお互いに英語を話し、フィードバックを与える際にレベルの差があることで英語が得意な学生は得られる物が少なく、英語が苦手な学生は相手の話す英語について行くことさえも難しいという事が挙げられた。ペアのレベルやモチベーションによって講座の質が大きく左右されてしまうため、レベルによってペアの組み合わせを考えて欲しいという意見もあった。

また、前年度と違い Zoom を利用したオンラインでの開催であったが、Zoom で本講座を受講する事に関する満足度を5段階で評価してもらったところ、

大変満足… 21.4%、 満足… 42.9%、 普通… 28.6%、 不満… 7.1%、 大変不満…0%、

という結果になり、ブレイクアウトルームで話しているときに自分の英語が間違っているか確認しにくいという声があった。講師たちは順番にブレイクアウトルームを回っていたが、いない時には対応できないので、今後はブレイクアウトルームの活用方法を検討する必要がある。

TA 兼受講生の感想

前半後半ともに最初は多くの学生が受講していたが、次第に受講人数は減っていった。定期試験や卒業論文などで多忙なため欠席した学生が多かったのも、春学期の方が受講生の減少が抑えられるのではないかと感じた。

アンケートにもあったが受講生の英語レベルの個人差が非常に大きく、ブレイクアウトルームでのペアワークの際には英語が苦手な学生のレベルに合わせた会話になってしまう事が多いため、受講申込の時点でレベルに制限を設けたり、制限は無しでも受講決定後にレベルを分け、ペアの組み合わせに反映する等の工夫が必要であると思った。また、告知から講座開始までの期間が短く、興味はあるが参加出来なかったという声もあるので告知の時期も早めたほうが良いと思われる。

令和2年度 派遣留学説明会



留学生専門教育担当講師
グリブ ディーナ

工学部・工学研究科の在籍生を対象とする派遣留学説明会は、毎年恒例の行事であるが、春期分は新型コロナウイルスの世界的流行に伴い、中止せざるを得ず、秋期分はオンライン開催となった。

2020年10月27日(火)の18:15～19:45 テレビ会議 (Zoom) を用いて実施された。

説明会の内容は、下記の通りであった。

- 国際交流・学生支援委員長水野幸治教授による挨拶
- 国際交流室レイト講師による派遣留学の仕組みの説明
- 海外留学室岩城奈巳教授による全学留学プログラムの紹介
- 工学部・工学研究科の部局間協定校への留学の説明
- 国際交流室曾講師による中国国内協定校へのオンライン留学プログラム等の説明
- 工学研究科物質プロセス工学専攻 博士前期課程1年生のフロリダ大学留学経験者による体験談
- 国際交流室レイト講師による工学部・工学研究科の英語力強化講座の説明
- Q&A セッション

本説明会では、30名の参加登録があり、参加登録者の学年の内訳を右の図2に示す。

新型コロナウイルスの都合上、海外留学が実施困難な状況が続いている中、低学年の学生に対して将来の準備のために必要な情報提供ができたと考えられる。

名古屋大学工学部工学研究科の学生対象
海外留学説明会
STUDY ABROAD Guidance for Engineering Students
2020. 10/27 (火)
18:15 - 19:45
会場: オンライン (Zoom)
内容
・ 名古屋大学の海外留学プログラムの説明・相談
・ 海外留学室による全学留学プログラム、工学部・工学研究科の部局間協定、「オンライン留学」等の紹介
・ 海外留学体験者の体験談
・ 工学部・工学研究科の英語力強化講座の説明
・ Q&Aセッション
参加登録:
<https://forms.gle/6N2sSisUmwZdU6YG7>
参加登録QRコード
お問合せ:
名古屋大学大学院工学研究科・国際交流室
advisors@int.engg.nagoya-u.ac.jp

図1. 派遣説明会のポスター

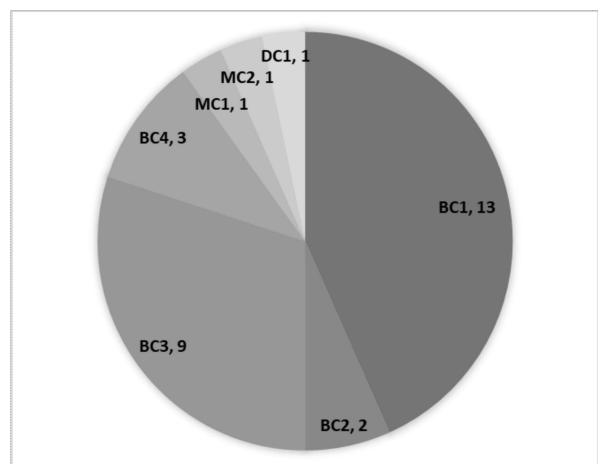


図2. 学年による参加登録者の内訳

令和2年度工学概論第3「日本の科学と技術」



留学生担当教員
曾 剛

工学概論第3は、名古屋大学工学部専門系関連科目として毎年秋学期に開講しています。この授業は日本の科学と技術における各分野の先端技術について講義し、これからの発展方向と技術者が果たすべき役割について討論し、理解を深めるという内容になっています。今年は、コロナウィルスの影響で全ての講義をオンラインで実施することになりました。遠隔授業に慣れていないのですが、NUCTの機能と連携しながら、ZOOMの機能を工夫して、対面と同じような質を目指して実施しました。本講義は国際交流室の留学生専門教育担当教員が実施することとなっており、西山、レレイト、曾の3名にて行いました。授業の主な内容は以下の通りです。

1. The innovative factors of technologies in Japan (Kiyohisa NISHIYAMA)
 - This lecture provides the participants with the concept of 40 innovation principles. Some Japanese technologies are broken down into the combination of the principles as examples.
 - The students each are asked to analyse a technology of interest found in Japan. The students will be able to grab the concepts of any technological innovations after completing this lecture.
2. Science, Technology and Innovations in Embedded Computing Systems (Gang ZENG)
 - This lecture gives an overview of the embedded computing systems related technologies in Japan. In particular, the latest innovations on the low-energy and automotive applications will be introduced.
 - The students are asked to participate in group discussion to share their ideas and thoughts about energy conservation and future automobiles.
3. Science, Technology and Innovations in Disaster Risk Reduction (Emanuel LELEITO)
 - This lecture gives students an overview of the Scientific and Technology Innovations that have contributed to Japan's leading role in Disaster Risk Reduction (DRR).
 - DRR related discussions and presentation in class will help students exercise their creative thinking and problem-solving skills.

今年は34名の学生（内訳は留学生8名、日本人学生26名）が受講しました。三人の講師は遠隔授業をより分かりやすくするため、講義の資料を作り直しました。また、双方向授業になるために、授業中の質疑応答や、グループディスカッションと最終のオンライン発表会などをZOOMとGoogleドキュメント及びNUCTの機能を連携し、活用しました。

アンケート結果により、学生たちから「学習の目標を達成できた」や、「授業に意欲的に取り組みました」の回答をいただきました。また、通常の講義と比べて、遠隔講義は、集中できる、場所に縛られない、理解が進んだ、などのポジティブな意見もいただきました。

今後の課題としては、オンライン授業で、学生の顔が見られない中、如何に学生の理解度を確認しながら、分かりやすく説明するかを改善していきたいと思えます。

令和2年度テクニカルライティング



留学生担当教員
曾 剛

テクニカルライティングは、名古屋大学工学部専門系関連科目として2020年春学期から四年生向けに開講した新しい科目です。この授業は科学技術的内容を他者に対して英語で発信するとき必要な論理的考え方とその表現手法を学び、英語での科学技術ライティングやプレゼンテーションへの応用を身に付けることを目的にしています。また、受講することにより、次の四つの目標達成を目指しています。①論理的な考え方を理解し課題を構造化できること。②問題解決に至る文書構造を理解し構成できること。③科学技術論文のアブストラクトを英語で書けること。④上記を英語でプレゼンテーションに応用できること。本講義は国際交流室の留学生専門教育担当教員が実施することとなり、今年度は西山、レレイト、曾の3名にて行いました。授業の主な内容は以下の通りです。

1. 論理的思考(担当:西山聖久)
 - 1.1 論理的な考え方
 - 1.2 論理の構造化
 - 1.3 問題解決法
2. ライティングスキル(担当:レレイト エマニュエル)
 - 2.1 文書構造の理解
 - 2.2 文書構造の構成
 - 2.3 アブストラクトを英語で書く
3. プレゼンテーションスキル(担当:曾剛)
 - 3.1 英語プレゼンテーションの基本
 - 3.2 英語スライドの作成
 - 3.3 英語での発表と質疑応答

コロナウィルスの影響下、新しく開講した授業にもかかわらず沢山の学生が受講したことは、英語でのテクニカルライティングの必要性を感じました。三人の講師にとって、初めての遠隔授業ですが、学生たちが楽しく授業に参加できるよう、様々な工夫を行いました。まず、資料のみでも学習できるよう、講義資料を詳細に作り充実させました。また、オンライン授業に楽しく参加できるよう、ZOOM のオンラインクイズ、グループディスカッションと発表機能、及び NUCT のレポートフィードバック機能を生かして、双方向授業になるよう工夫しました。

アンケート結果により、80%以上の学生から「学習の目標を達成できた」や、「授業に意欲的に取り組みました」の回答をいただきました。また、「学生、先生ともに慣れない遠隔授業形態であったが、先生方の工夫が見られ、教えてもらったことを頑張って身につけようという気持ちが増した」という感想もいただきました。

初めての授業ですが、改善できる点がまだ多いと思われます。今後、成績評価の方法・基準の説明、授業の内容量、話し方などについて、注意しながら改善していきたいと思えます。

令和2年度 留学生の防災意識と防災対応力の向上に関する取り組み



留学生専門教育担当教員

レレイト エマニュエル
LELEITO Emanuel

概要

南海トラフ地震など大規模な自然災害のみならず、日常的な大学生活の安全確保も含めて、非常時の留学生の安全対策と教育・研究および生活の維持は重要な課題である。そのためには、大学側の対策に加え、留学生の防災意識の向上や災害対応力の強化が必須となる。本プロジェクトは、言葉や文化の相違のために災害等の非常時の対応が難しいことがある留学生に対して、日本の災害・防災の現状と問題点を学ぶ機会を提供し、防災力向上に向けた自発的行動を誘発することを目的としている。このことは同時に、大学の防災体制強化や非常対応の準備にもなり、また日本の社会や文化の深い理解や地域との交流につながる。さらには、留学生をはじめ外国人に対応した防災・減災社会形成の推進に貢献することができる。

本プロジェクトは、以上の背景のもとで、近年の災害発生や日本社会の対応、留学生をとりまく状況や意識の変化などを勘案して、内容を更新しつつ2012年度から継続してきた。これまでに多数の留学生が参加しており、その成果は防災訓練などに活用され、地域防災の取り組みにも貢献している。今年度は、東海国立大学機構の発足に合わせ、岐阜大学の留学生を加えた新たな取り組みも企画・実施する。

実施状況:

留学生の防災意識向上、日本の防災文化の体感、災害時に役立つ知識やスキル習得を目的とした下記の防災教育活動を実施しました。

- ① 防災の専門家等による講座・ワークショップ(1回、オンライン)
- ② 減災館のツアー(1回、オンライン)
- ③ 名古屋大学×NHK国際放送による防災セミナー(1回、オンライン)

今年度は新型コロナウイルスの影響で対面式活動ができない状況が続き、例年実施しているスタディツアー(東海地域の防災関連施設の見学)と日本赤十字による救命講習は中止となりましたが、オンラインで実施した上記の活動には述べ96名(28カ国)の留学生が参加しました。オンライン実施の利点を活かし、名古屋大学×NHK国際放送による防災セミナー(関連資料別添)では、岐阜大学、豊橋技術科学大学、そして海外の地震地域にある二つの協定校(メキシコ国立自治大学とニュージーランドのカンタベリー大学)でも本プロジェクト活動を宣伝していただき、これらの大学から学生16名の学生と教職員がセミナーに参加しました。

今後は、例年の活動(新型コロナが収束すれば)を実施するとともに、本年度のオンライン実施の成果を踏まえ、海外の協定校を加えた新たな留学生防災教育の取り組みも視野に入れて引き続き本プロジェクトの活動を実施していきます。

英語による留学生向けものづくり公開講座の報告



機械システム工学専攻
教授
創造工学センター長
井上 剛志

創造工学センターの「留学生向けものづくり公開講座」は、学内に在籍する外国人が参加できる実習・体験型の講座で、スタッフによる英語でのレクチャーが好評を博し、例年は7月に「エンジンモデルの分解・組立」講座を、12月に「ガラス工作」講座を実施しています。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、JUACEPの留学生受入プログラム自体が中止となり、当センターの「留学生向けものづくり講座」もこの状況に対応した形で実施しました。7月の講座は中止し、12月16日に学内の留学生向けに「エンジンモデルの分解・組立」講座を開講しました。例年留学生に大好評の「ガラス講座」はマンツーマン指導となるため感染対策および安全対策上の理由からやむなく中止し、感染対策を講じた上で参加者数を限定し「エンジンモデルの分解・組立」講座を開講、米国とベトナムからの留学生が参加しました。

同講座は、まずIB電子情報館北館10階の創造工学センターにおいてスタッフおよび参加者の自己紹介、危険予知と対処の説明の後、エンジンの歴史、仕組みや構造の違い等のレクチャーを受講します。そして、技術部スタッフの実演と解説、留学生TAのサポートを受けながら、実際にエンジンモデルを一人1台分解と組立を実践します。その後実習工場に移動し、自分で組み立てたエンジンモデルを実際に作動させ、さらに、ジェットエンジンのデモンストレーションも体験しました。講座終了後のアンケートによれば、「大変満足であった」「友人にも勧めたい」「他の講座もあればぜひ参加したい」との感想が寄せられました。このコロナ禍で体験学習が乏しい中、安全に学びの機会を提供でき国際交流の一助となれば幸いです。

最後に、このような取り組みに対し、常に惜しみないご支援をいただいております工学研究科国際交流室のご関係者の皆様に心より感謝の意を表します。



令和2年度 グローバル理工系人材のためのキャリア形成支援事業



留学生専門教育担当講師
グリブ ディーナ

本事業は、工学部・工学研究科および環境学研究科の地球環境科学専攻と都市環境学専攻に在籍している留学生を対象とし、理工系学生に特化した日本での就職支援ならびにキャリア開発のために求められる社会人基礎力の向上を目的として、下記のとおり実施した。

【学外キャリアカウンセラーによるセミナー】

■2020年10月20日

日本での就活ガイダンス

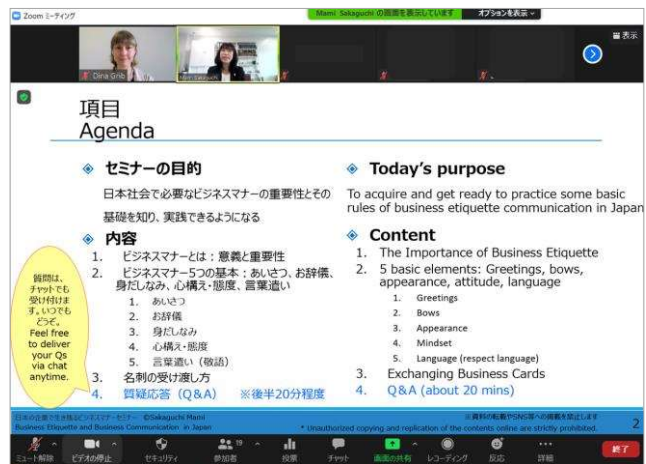
※M2 内定者による体験談も用意

■2020年10月29日

コロナ禍の就職活動のコツ

■2021年3月13日

日本の職場で生き残るビジネスマナー講座



【工学研究科修士生との交流会】

2021年3月27日 OBOG 座談会

2021年3月13日「日本の職場で生き残る
ビジネスマナー講座」開催の様子

【個別キャリアカウンセリング】

2020年11月7日、2020年12月11日、2021年1月22日、2021年2月10日、

2021年3月2日、2021年3月5日、2021年3月24日

本事業の枠内で開催したガイダンスの参加状況は各回20名前後であり、参加者の3割程度が英語訳を必要としており、筆者による英訳付きで実施した。研究生および博士後期1年生等、就職活動の開始までの余裕がある学生に対して、英語により情報を提供し、日本語学習の重要性を早期に伝える点では、効果が期待できる。OBOG交流会は、肯定的なフィードバックが寄せられ、今後の開催が有意義であることが確認できたため、来年度は実施回数を増やす方針で検討したい。個別キャリアカウンセリングは、延べ35名の学生に対してプロのキャリアカウンセラーにより助言を行った。通訳付き英語によるカウンセリングも約57%（延べ20名）を占めており、日本国内外でのキャリア開発に関する助言を英語で求める学生のニーズが発覚し、本事業がそれにある程度応えられたと考えられる。本事業の成果を以下の通り発表した。

グリブ ディーナ(2021)「理工系留学生のキャリア形成支援と日本語教育のニーズに関する一考察」『言語の研究』第8号、pp. 73-84.

授業料を不徴収とする大学（部局）間交流協定締結大学一覧

国・地域	大学名	部局間/全学別
アイスランド	アイスランド大学	全学間
アメリカ	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	全学間
アメリカ	オレゴン大学	全学間
アメリカ	コロラド鉱山大学	工学部
アメリカ	シンシナティ大学	全学間
アメリカ	セント・オラフ大学	全学間
アメリカ	ニューヨーク大学	全学間
アメリカ	ノースカロライナ州立大学	全学間
アメリカ	ノースカロライナ大学チャペルヒル校	全学間
アメリカ	フロリダ大学	全学間
アメリカ	ミシガン大学工学部	工学部
アメリカ	ミネソタ大学	全学間
アメリカ	ワシントン大学工学部	工学部
アメリカ	南イリノイ大学カーボンデール校	全学間
イギリス	ウォリック大学	全学間
イギリス	ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジ	全学間
イギリス	シェフィールド大学	全学間
イギリス	ダラム大学	全学間
イギリス	ブリストル大学	全学間
イギリス	リーズ大学	全学間
イギリス	ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)	全学間
イタリア	カターニア大学	全学間
イタリア	パドヴァ大学情報工学部門	工学部
イタリア	パドヴァ大学土木環境建築工学科	工学部
イタリア	ボローニャ大学	全学間
インド	インド科学大学院大学	全学間
インド	タタ基礎科学研究所	全学間
インドネシア	インドネシア大学	全学間
インドネシア	インドネシア大学工学部	工学部
インドネシア	インドネシア大学情報科学部	工学部
ウズベキスタン	サマルカンド国立大学	全学間
ウズベキスタン	タシケント工科大学	全学間

国・地域	大学名	部局間/全学別
エジプト	タンタ大学工学部	工学部
オーストラリア	アデレード大学	全学間
オーストラリア	オーストラリア国立大学	全学間
オーストラリア	シドニー大学	全学間
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	全学間
オーストラリア	モナシュ大学	全学間
オーストラリア	西オーストラリア大学	全学間
オーストリア	クラゲンフルト大学ソーシャルエコロジー研究所	工学部
オランダ	トゥエンテ大学	全学間
オランダ	ラドバウド大学	全学間
カナダ	オタワ大学	全学間
カナダ	カルガリー大学	全学間
カナダ	トロント大学(The Faculty of Arts and Science)	全学間
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	全学間
カナダ	モントリオール大学	全学間
カナダ	ヨーク大学	全学間
韓国	ソウル国立大学校	全学間
韓国	浦項工科大学校	全学間
韓国	延世大学校	全学間
韓国	釜山大学校工学部	工学部
韓国	漢陽大学校	全学間
韓国	韓国科学技術院 (KAIST)	全学間
韓国	慶尚大学校	全学間
韓国	慶北大学校工学部	工学部
韓国	慶熙大学校	全学間
韓国	高麗大学校	全学間
韓国	成均館大学校	全学間
グアテマラ	バレ・グアテマラ大学工学部	工学部
ケニア	ナイロビ大学	全学間
シンガポール	シンガポールマネジメント大学	全学間
シンガポール	シンガポール国立大学	全学間
シンガポール	南洋理工大学	全学間
スイス	ジュネーブ大学	全学間

国・地域	大学名	部局間/全学別
スウェーデン	ウプサラ大学	全学間
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	全学間
スペイン	バルセロナ大学	全学間
タイ	カセサート大学	全学間
タイ	チュラロンコン大学	全学間
台湾	国立交通大学電気電子コンピュータ工学院	工学部
台湾	国立清華大学	全学間
チェコ	チェコ工科大学	全学間
中国	華中科技大学	全学間
中国	上海交通大学	全学間
中国	清華大学	全学間
中国	西安交通大学	全学間
中国	大連理工大学	全学間
中国	大連理工大学建設工学部	工学部
中国	中国科学院上海セラミックス研究所	工学部
中国	中国科学技術大学	全学間
中国	中南大学	工学部
中国	東北大学	全学間
中国	同済大学	全学間
中国	南京航空航天大学	工学部
中国	南京大学	全学間
中国	復旦大学	全学間
中国	北京工業大学	工学部
中国	北京師範大学減災応急管理学院・地表過程資源生態重点研究所	工学部
中国	北京大学	全学間
中国	哈爾濱工業大学	全学間
中国	浙江大学	全学間
中国	瀋陽工業大学	工学部
デンマーク	オーフス大学	全学間
ドイツ	アーヘン工科大学	全学間
ドイツ	イノベーションズフォーハイパフォーマンスマイクロエレクトロニクス(IHP)	工学部
ドイツ	ケムニッツ工科大学	全学間
ドイツ	ダルムシュタット工科大学土木工学・測地学科	工学部

国・地域	大学名	部局間/全学別
ドイツ	フライブルク大学	全学間
ドイツ	ブラウンシュバイク工科大学	全学間
ドイツ	マインツ大学物理・数学・コンピュータ学部	工学部
ドイツ	ユーリッヒ総合研究機構	工学部
ドイツ	ルール大学ボーフム校物理天文学部及び電子情報学部	工学部
トルコ	ビルケント大学	全学間
ノルウェー	オスロ大学	全学間
フィリピン	デラサール大学工学部	工学部
フィンランド	ヘルシンキ大学	全学間
ブラジル	サンパウロ大学	全学間
フランス	クレルモンオーベルニュ大学	工学部
フランス	コミュニテ・グルノーブル・アルプス大学	全学間
フランス	ストラスブール大学	全学間
フランス	パリ第7大学 (パリ・ディドロ大学)	全学間
フランス	パリ東大学	全学間
フランス	ポンゼショセ工科大学	全学間
フランス	リヨン高等師範学校	全学間
フランス	リヨン第3大学	全学間
ベトナム	ハノイ工科大学	全学間
ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学	全学間
ポーランド	ワルシャワ工科大学	工学部
ポーランド	ワルシャワ大学	全学間
香港	香港城市大学	全学間
香港	香港大学	全学間
香港	香港中文大学	全学間
香港	香港理工大学	全学間
南アフリカ	ステレンボッシュ大学	全学間
メキシコ	メキシコ国立自治大学	全学間
ロシア	モスクワ工業物理大学	工学部

令和2年度 学位取得外国人留学生論文一覧（博士後期課程）

氏名	国・地域	専攻名	主論文題目
NGUYEN DUC HUNG	ベトナム	航空宇宙工学	Investigation of Multicopter Flight Dynamics and Integration of Autonomous Flight and Millimeter Wave Power Transmission (マルチコプターの飛行力学ならびに自動飛行とミリ波パワー伝送の統合に関する研究)
李 梦泽	中国	マイクロ・ナノシステム工学	Intention Reading and Sensory Substitution for Improving Walking Quality of Paraplegia Wearing An Exoskeleton (両下肢麻痺患者の歩行支援を改善する意図推定と感覚代行技術)
劉 強	中国	電子工学	Study on High Quality bulk GaN Single Crystal Growth by Halide Vapor Phase Epitaxy (ハライド気相成長法による高品質バルク GaN 単結晶成長に関する研究)
王 江波	中国	土木工学	Exploring Subscribing Behavior and Spatiotemporal Evolution in Demand of Customized Bus Service (カスタマイズドバスサービスのサブスクリプション行動と需要の時空間進化に関する研究)
ARDIANSYAH FAUZI	インドネシア	土木工学 (土木系プログラム)	STUDY ON REAL-TIME TSUNAMI INUNDATION, WAVEFORMS, AND WAVEFIELD FORECASTING (津波の波形、流動場および津波浸水域のリアルタイム予測に関する研究)
鄭 巽	中国	土木工学 (土木系プログラム)	Study on Option Price of Public Transport: Theory, Evaluation Method, and Case Study in Japan (公共交通のオプション価格に関する研究：日本における理論、評価方法、ケーススタディ)
TRAN VIET YEN	ベトナム	土木工学 (土木系プログラム)	The effects of environmentalism and attitudes toward physical activity on travel behaviors (交通行動における環境意識と運動に対する態度の影響)
KIM SEUNGGWANG	韓国	物質プロセス工学	Development of direct joining process of metals and polymers via additively fabricated anchor layer by laser induced in-situ reaction (レーザ誘起その場反応型付加製造によるアンカー層を介した金属/ポリマー直接接合プロセス開発)

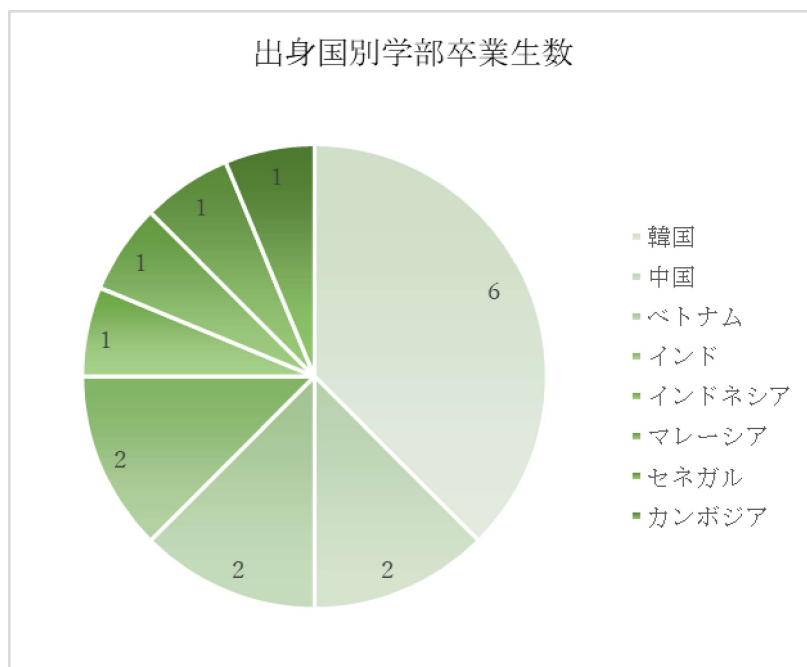
氏名	国・地域	専攻名	主論文題目
LASKAR MAHASWETA	インド	社会基盤工学 (土木系プログラム)	Anaerobic Autotrophic Metabolism using Humin as an Extracellular Electron Mediator (細胞外電子伝達物質として腐植ヒューミンを利用する嫌気性独立栄養代謝)
MUHAMMAD SHOAIB KARAM	パキスタン	土木工学 (土木系プログラム)	PERFORMANCE EVALUATION OF CONNECTIONS IN CONCRETE STRUCTURES USING 3D-RBSM (3次元剛体バネモデルを用いたコンクリート構造物内の接合部の性能評価)
PHAN PHU QUOC	ベトナム	化学システム工学	Synthesis of Nitrogen-Doped Graphene-Coated Metal Nanoparticles and Their Catalysis for the Oxygen Reduction Reaction (窒素含有グラフェン被覆金属ナノ粒子の合成と酸素還元触媒)
刘 全利	中国	生命分子工学	Designed Synthesis of ZnO Nanowires in Hydrothermal Process and Their Photoelectronic Nanodevice Application Towards Biomolecule Analysis (ZnO ナノワイヤ水熱合成の精密設計と生体物質の光・電気解析ナノデバイスへの展開)
TANG PEIJUN	中国	機械理工学 (電子機械工学)	Level-set based topology optimization with objective functional of tangential derivative of boundary displacement for two-dimensional elastodynamic problems (レベルセット法に基づく二次元動弾性問題における変位の接線導関数を目的関数とするトポロジー最適化に関する研究)
CHANG DI	中国	マイクロ・ナノシステム工学	Measurement of the Mechanical Property of Unicellular Organism Using Microfluidic Chip and Atomic Force Microscopy (マイクロ流体チップと原子間力顕微鏡を使用した単細胞生物の機械的特性の測定)
施 越	中国	応用物質化学	Controlled Synthesis and Assembly of Two-Dimensional Oxides toward Electronic Applications(エレクトロニクス応用を志向した2次元酸化物の精密合成と集積)
MARINA BINTI MUSA	マレーシア	生命分子工学	Oxide-nanowire microfluidic devices for the analysis of cancer-related nucleic acids (がん関連核酸分析のための酸化物ナノワイヤマイクロ流体デバイス)

氏名	国・地域	専攻名	主論文題目
张 巍	中国	化学システム工 学	Tribological Properties of B ₄ C Based Ceramics (炭化ホウ素基セラミックスのトライボロジー特性)
冯 双园	中国	電気工学	Photocatalytic application of helium plasma induced nanostructured tungsten oxides in bulk and thin film forms (バルクおよび薄膜形態のヘリウムプラズマ誘起ナノ構造酸化タングステンの光触媒応用)
史 柯	中国	電子工学	Development of an FPGA-based MI sensor system for high compatibility and high resolution (FPGA を用いた高互換性と高分解能を実現する MI センサーシステムの開発)
马 家驹	中国	電子工学	Development of high performance femtotesla resolution magneto-impedance sensor system for bio-magnetic measurements (フェムトテスラ分解能磁気インピーダンスセンサの開発と生体磁気計測に関する研究)
KIM EUGENE	韓国	機械システム工 学	A study on robust speed and separation monitoring for risk estimation of human hand intrusion (人間の手の侵入のリスク見積もりのためのロバストな速度と分離のモニタリングに関する研究)
KOONDILOGPI BOON NUNTAPHONG	タイ	機械システム工 学	Nonlinear Rotordynamics Investigation on Self-Excited Vibration of Rotors Supported by Fixed Profile and Tilting Pad Journal Bearings (固定形状およびティルティングパッドジャーナル軸受で支持されたロータの自励振動の非線形ロータダイナミクス解析)
NGUYEN TRUONG	ベトナム	機械システム工 学	Topology optimization for thermal and flow fields related to lattice Boltzmann method (格子ボルツマン法に関連した温度・流れ場のトポロジー最適化)
XIE SUQIONG	中国	機械システム工 学	Topology Optimization Method for Flow Channel Design Using Lattice Kinetic Scheme Considering Thermal and Unsteady Flows (格子運動論スキームを用いた、非定常流と熱伝導問題を考慮した流体流路のトポロジー最適化)

氏名	国・地域	専攻名	主論文題目
朱 曜南	中国	マイクロ・ナノ 機械工学	Embodiment Based Sensory Feedback for Human Control Over Robotic Systems (身体化に基づいた感覚フィードバックによるロボット操作)
郜 有名	中国	航空宇宙工学	圧縮性乱流における物質混合過程の解明及び モデル化に関する研究 (A study on elucidation and modeling of mixing process in compressible turbulence)
NAM SOOHYUN	韓国	航空宇宙工学	High-Efficiency Cutting with Spindle Speed Variation (主軸回転速度変動法を用いた高能率切削加工)
SONG JUNDONG	中国	エネルギー理工 学	Study on Nanostructured Pb(Zr,Ti)O ₃ for Piezoelectric Energy Harvesting (圧電エネルギーハーベスティングに資する Pb(Zr,Ti)O ₃ のナノ構造化に関する研究)
何 嘉杭	中国	土木工学	Characterization of driving behavior in terms of distance with the promotion of electric vehicles(電気自動車の推進 のための走行距離に関する運転行動分析)
PARK JAEHYEOK	韓国	化学システム工 学	Development of Highly Corrosion Resistant Platings via Structure Design (構造制御による高耐食性めっきの開発)
M. ARIEF RAHMAN PANJAITAN	インドネシア	土木工学 (土木系プログラ ム)	Low cycle fatigue crack propagation in steel under various cyclic loading histories (変動振幅荷重を受ける低サイクル疲労き裂の進展に 関する研究)

令和2年度 学部卒業留学生

学科名	国・地域	人数
化学・生物工学科	ベトナム	1
物理工学科	韓国	3
電気電子・情報工学科	インド	2
	インドネシア	1
	ベトナム	1
	マレーシア	1
	韓国	2
機械・航空工学科	中国	1
機械・航空宇宙工学科	セネガル	1
	カンボジア	1
環境土木・建築学科	韓国	1
	中国	1

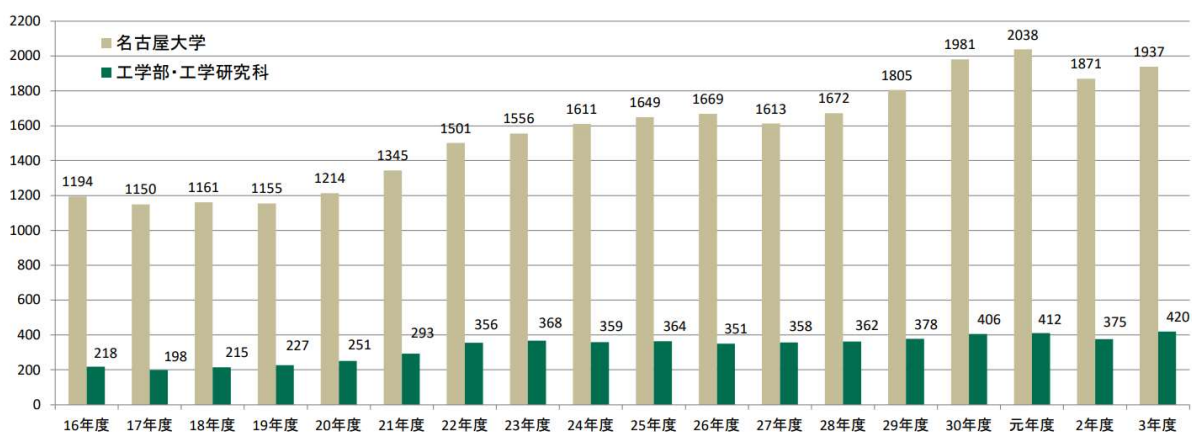


名古屋大学及び工学部・工学研究科在籍外国人留学生の変遷

平成 (西暦)	16年度 (2004)	17年度 (2005)	18年度 (2006)	19年度 (2007)	20年度 (2008)	21年度 (2009)	22年度 (2010)	23年度 (2011)	24年度 (2012)	25年度 (2013)	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	令和 元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)
名古屋大学	1194 (553)	1150 (553)	1161 (566)	1155 (563)	1214 (607)	1345 (685)	1501 (764)	1556 (783)	1611 (816)	1649 (799)	1669 (837)	1613 (786)	1672 (822)	1805 (916)	1981 (1014)	2038 (1062)	1871 (972)	1937 (953)
国・地域数	70	70	73	72	74	78	73	76	81	87	93	93	91	106	109	103	100	91

工学部・ 工学研究科	218 (45)	198 (37)	215 (34)	227 (99)	251 (63)	293 (73)	356 (101)	368 (102)	359 (96)	364 (88)	351 (86)	358 (87)	362 (81)	378 (86)	406 (91)	412 (102)	375 (102)	420 (102)
国・地域数	31	25	26	28	27	26	26	26	28	27	36	40	43	44	38	36	30	31

()は女子を内数で示す



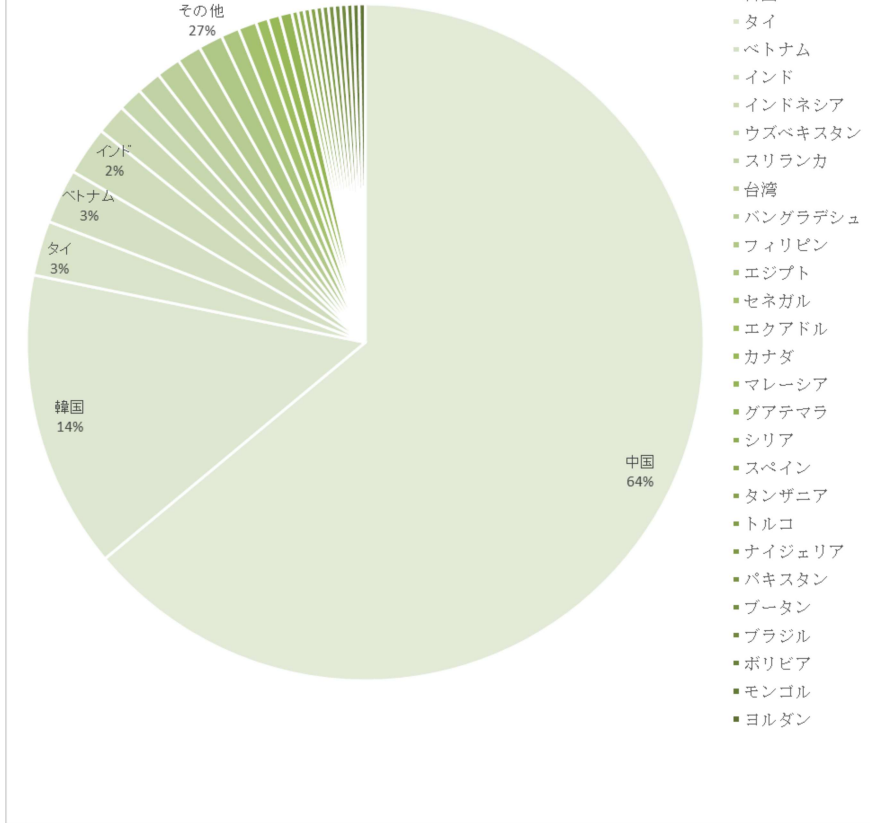
工学部・工学研究科外国人留学生数調（国・地域別）

令和3年5月1日現在

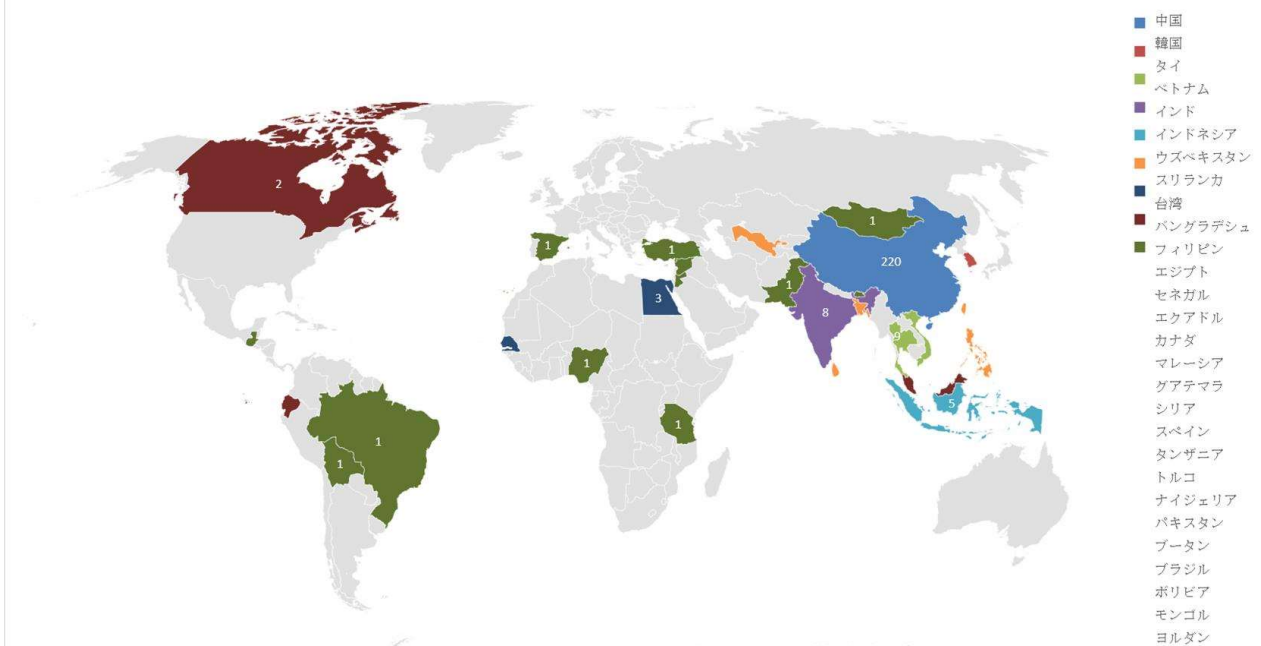
国・地域	国費		政府		私費		合計	
中国	4	(1)			216	(60)	220	(61)
韓国	11	(1)	13	(3)	25	(5)	49	(9)
タイ	6	(1)			3	(2)	9	(3)
ベトナム	7	(1)			2		9	(1)
インド	6	(1)			2		8	(1)
インドネシア	5	(2)					5	(2)
ウズベキスタン	1				3		4	(0)
スリランカ	1				3		4	(0)
台湾					4		4	(0)
バングラデシュ	4						4	(0)
フィリピン	1	(1)			3	(1)	4	(2)
エジプト	2	(1)			1		3	(1)
セネガル	1				2		3	(0)
エクアドル	1				1	(1)	2	(1)
カナダ	2	(1)					2	(1)
マレーシア					2	(1)	2	(1)
グアテマラ	1						1	(0)
シリア	1						1	(0)
スペイン	1						1	(0)
タンザニア	1						1	(0)
トルコ					1		1	(0)
ナイジェリア					1		1	(0)
パキスタン	1						1	(0)
ブータン	1						1	(0)
ブラジル	1						1	(0)
ボリビア	1						1	(0)
モンゴル					1		1	(0)
ヨルダン					1		1	(0)

* () は女子を内数で示す

工学部・工学研究科外国人留学生
(国・地域別)



工学部・工学研究科外国人留学生出身地分布図



編集後記

令和2年度国際交流室の活動は、新留学生のオリエンテーションと面談、在籍留学生の支援、在籍生向けの講義、名大生向けの派遣留学説明会、国際交流会等を行ってまいりました。また、オンライン出願システム NU-AAS による私費外国人研究生の受入選抜業務、協定校学部生の短期受入プログラム、留学生を対象とした防災教育、科学技術英語ライティング教育、留学生のキャリア形成支援、留学生リクルーティング活動を適宜オンライン開催に移行しながら継続的に実施しました。詳細については、留学生担当教員の各報告をご参照願います。

令和2年度は、新型コロナウイルスの世界的流行の影響で多くの対面イベントおよび国境を超える国際交流を中止せざるを得ない状況下、留学生支援業務および対面による国際交流の意義を再確認し、重要性をあらためて認識できました。国際交流室一同、オンライン通信技術などの手段を最大限に活用しながら、ポストコロナに適した国際交流を推進してまいりますので、教職員の皆様方、関係者各位のご協力とご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆になりますが、ご多忙中にもかかわらず本室報の執筆依頼を快くお引き受けくださった教職員の方々に厚く御礼申し上げます。

2021年10月

留学生専門教育担当教員 曾 剛

留学生専門教育担当教員 グリブ ディーナ

名古屋大学工学部・大学院工学研究科国際交流室報

発行年月

2021年11月

発行

名古屋大学・大学院工学研究科 学生支援・国際交流委員会

編集

名古屋大学・大学院工学研究科 国際交流室

